

會 長 講 演

第16卷第3號 昭和15年3月

時 局 と 土 木

(昭和15年2月15日土木學會通常總會に於て)

會 長 八 田 嘉 明

之より恒例に依りまして會長としての私の講演に移りたいと存じます。本年は皇紀二千六百年を迎へ、我々國民と致しまして、誠に深き感激を覚える次第であります。各自其の分に應じて皇運扶翼に力を致さなければならぬと存ずるのでございます。土木學會は昨年創立二十五周年を迎へ、本年は恰も二十六年でございます。此の土木學會に於きましても、我々會員と致して、此の場合國運に沿ふて本會の使命を達成することに一層心掛けねばならぬと感ずる次第であります。

然らば我々は何を考へたら宜いか、或は何をしなければならぬのかと云ふことに思ひ至つて見ますと、先づ我々國民に眼のあたり與へられて居ります問題は、東亞新秩序の建設と云ふことであります。是は申上げる迄もなく國民としての非常な大事業であります。東亞新秩序の建設は一口に申せば舊い秩序から新しい秩序に東亞の天地を置換へると云ふことであらうと考へるのであります。是は困難なることではありますけれども、世界の近情を達觀致しますと、どうしても我が國の存立上から言つて必至の要望であると考へる次第であります。是は我國國民の凡ゆる角度から、凡ゆる方面からの綜合的努力の結果、始めて期待し得べき問題であると考へますし、又我が日本民族の精神力、又物質力と云ふものゝ綜合力に依て、始めて可能であると信ずる者であります。此の問題は國民に課せられたる目前の大問題で、即ち國民の知識を總動員しなければならぬと云ふことでありますならば、我が技術界、殊に我が土木界と致しましては、此の立場に立つて大いに工夫考慮を廻さなければならぬと存ずる譯であります。只今申述べましたやうな觀點から、私は茲に謂はば土木觀からしたる時局觀とでも申しますか、少しくお話を申上げて見たいと思ひます。

唯私の申上げることは皆様既に能く御承知のことで、何等目新しいものはないのでございます。唯平生の私の思ひ浮かんだことから拾つて摘み出して申上げるに過ぎないのでございます。土木學會でも時局對策委員會と云ふものが設けられまして、夙に時局に對する土木界の努力を續けられつゝあることは、誠に其の宜しきを得たものと存ずるのであります。

そこで幾つかの問題に就て斷片的に感想を申上げるのでありますが、近頃私共の耳に道入つて居る所に依りますと、今日の世界の歴史の大波は恐らく戰亂時代に道入つたのではないか、少くとも紛争時代に道入つたのではないかと考へられると申す人が段々多くなつたのであります。東亞でも昭和6年に滿洲事變があり、滿洲國の建設半ばにして、8年目の昭和12年に支那事變が勃發し、今日事變に對して國を擧げて努力を致して居る際に、昨年又歐洲に動亂が起つた、此の歐洲の動亂は或は一時小康を得るかも知れぬけれども、又何等かの出來事が世界の何處の邊にか起り得ると云ふことを、何となく考へて居る人々が相當多いと存ずるのであります。さう致しますれば後世歴史家が此の時代を見て或は戰亂の時代である、或は少くとも紛争時代であつたと記録するかも知れぬと考へるのであります。若し果してさうだとしますれば、我々は支那事變に依つて國家總力戰と云ふものを體驗致しましたが、更に又何日何時國家總力戰と云ふものに對して、我々が努力を致さなければならぬかも知れないと考へねばな

らぬと思ふのであります。國家總力戦は御承知の通り平素から準備し訓練をしなければ、いざと云ふ場合に總力戦の効果は之を期待することか出来ない譯であります。即ち經濟に就て申せば平常用意をしてあればこそ、平時の經濟を戦時の經濟に何時でも轉換し得るのであります。之に反してさうでなかつたならば、其の轉換に非常な摩擦と困難とを生ずることは當然であります。従つて國防經濟と云ふ言葉が近頃行はれますが、是は謂はば平時經濟の新しい形態と云ふ方が早いのでありまして何時でも戦時經濟に轉換し得る國家態勢を言ふと私は考へるのであります。支那事變勃發當時に我々國民は今日の如く我が國の經濟配置が遽り變るとは豫想しなかつたのであります。事實は非常な變化である。これは我々の現に見つゝある所であります。又今後も是が周圍の情勢に伴つて相當の轉換を見ることも、是は明かであると思ふのであります。従つて今回の事變に鑑みて少くとも我々は今後の我が國の國家體制、殊に經濟體制に於きましては十分なる心掛が今より必要である。詰り戦時體制或は國防體制も其の根本は精神力であり、物質力であることは申す迄もないのであります。其の精神力に對しては我が國は何時でも國難に至ります時は眞劍なる精神、偉大なる精神力を發揮致しますが、一方の物質力の方に於きましては今日の情勢に於きまして、尙ほ大いに努力を致さなければならぬ部分が殘されて居ると存するのであります。其の一つが即ち科學及技術の重要な働き舞臺であると信ずるのであります。

そこで私の感想であります。現在銃後の護りと云つて今日まで凡ゆる方面で努力を致して居りますけれども、此の銃後の科學、技術と云ふ點になりますと、私は必ずしも未だ十分に其の力が發揮されて居らぬのではないかと考へるのであります。是は併し私の觀察でありますから、誤りかも知れないのであります。左様に感ずるのであります。そこで若しさうであるとすれば、此の技術界或は専門の立場にあります者は、此の點に大いに思を致さなければならぬと考へるのであります。近頃統制と云ふやうな問題が大分議論せられて、色々と批評論難があるのであります。統制の理想は是も御承知の通り國の方向に經濟を向けて行く、指導して行くと云ふ點であつて、決して個々の經濟活動乃至其の自由を奪ふと云ふやうなことがあつてはならぬのであります。此の人間の所謂全智全能が活動されなければならぬ時に、統制に依つて個々の活動が阻止されると云ふことは、是は非常な過ちであると思ひます。是はどう云ふことかと云ふと法令、規則と云ふやうなものが先走つて、其の内容を爲す所の大切な部分が一向動いて居らぬからであると信ずるのであります。

そこで技術界は土木に限らず技術界としては、自發的に其の立場から大いに叡智を活躍せしめて、此の缺點を補はなければならぬと思ふのであります。此の點は法律命令で行き届かぬ、そして科學者、技術者の獨り舞臺の活躍部面であると存するのであります。結局國家總動員と申しまして、其の内容を爲す所の技術、科學の最高利用と云ふことがなければ、眞の國家總動員は絶対に出来ないと思ふのであります。要するに此の部分に互りまして技術の動員、是は決して自由を拘束すると云ふ意味ではありませぬので、是と反對に最高度の智能を活動させると云ふ叡智に依るのでありまして、叡智は絶対に法律では動員されることを許されないのであります。各自の自發的の活動に依つて始めて出来る動員であると思ふのであります。此の點に技術界、殊に土木技術界の如きは、最も我々が活動しなければならぬ分量が殘されて居るやうに考へるのであります。

近代戦の特徴は物資戦であり、且つ物資の消費戦である。而して戦争が長期に互りますと、愈々人的、物的資源の數學的の最高利用と申した方が宜いかと思ひますが、そこ迄行かなければ到底勝味はない譯であります。其の點に至りますと、もはや法律や命令の問題では絶対にないのであります。全く先程も申しました通り科學的頭腦、技術的叡智の一點に歸すると信ずるのであります。

そこで平時から戦時になり、更に長期戦になりますれば、そこにこの科學、技術の重要性が勃然として起つて來

るとささなければならぬのであります。次に總動員計畫と云ふものに就て見ますに、是の中心を爲すものは御承知の通り物動計畫、即ち物資動員計畫であります。此の物資動員計畫に相關聯して資金、貿易、勞務、交通、動力其の他生産の總ての計畫が樹てられて居る譯であります。而して此の物資の源泉は國內生産に依るか、輸入に俟つかの二つに依る外にない譯であります。今日の場合は輸入と云ふことに對しては専ら輸出に俟たなければならぬのでありますから、是は暫く措きまして、どうしても國內生産を増加する必要がある。是が爲に政府に於ても今日生産力擴充計畫なるものが樹立され且つ實行されて居る譯であります。此の生産力擴充計畫の内容を見ますと、相當土木の技術に關するものが多いのであります。一々拾ふ時間がありませぬから省略致しますが、相當あります。設備の擴充に於て非常な關係を持つて居ると思ひます。只今の生産力擴充計畫は物資資源の積極的方面であります。又之と併行して消極的の方面に於ては現在持つて居る所の物資を十分に利用すると云ふことが必要なのであります。此の見地から政府は昨年、物資利用委員會と云ふものを設けまして、こゝで十分に物資を活用することの研究をすることになつて居ります。又之と呼應して民間では代用品の工業協會を擴充し、又戰時物資活用協會と云ふものを設けまして、或は代用品の研究、或は又資源回收及利用と云ふことに對して大いに研究致して居るのであります。今日では是等は物資資源の利用の機關として、將來大いに發展すべき運命にあるのであります。此の事業の内容を成すものは科學、技術の部分が多いのであります。さうして土木工事なるものは、其の性質上其れ自體が非常に澤山の各種の資材を使用する關係上、其の點に最も關心を持たなければならぬと思ふのであります。土木學會が曩に土木資材の不足の實情を調査して、さうして代用品に對する懇談會を設けたと云ふやうなこと、或は地下構造物の鐵材節約の問題に關する委員會、或はセメントの問題と云ふやうなことに就きまして、斯う云ふ見地から學會が率先して研究されて居ることは結構のことではありますが、尙ほ併し大いに之からは所謂街頭に進出して、此の問題に力を致すことは土木學會の協力に俟つものが大いと私は存じます。

次は規格統一の問題であります。是は平時の國家經濟から言ふても、又最近の國防經濟と申しますか、國防技術と申しますか、さう云ふ觀點からも一層重要な問題になつたと考へるのであります。我が國でも工業設備に關する資材は相當規格化されて參つて居りますし、土木資材の規格化に就ても今日まで各方面に於て、又土木學會に於ても協力して來たと存じます。是も愈々最近の國內情勢から申しまして必要であると痛感致す次第であります。

次は勞働力の問題に就てあります。戰爭の長期の結局の段階は何處に行くかと云ふと、資材と勞働力の問題に來るのであります。其の資材も亦根本は勞働力でありますから、結局は勞働力の問題に歸着すると、斯う斷定して差支へない。殊に今我が國は一方に於て戰爭を遂行しながら、他方に於ては生産力擴充の施設をやつて居りますし、又一方に於ては大陸の建設を並行して行かなければならぬと云ふ立場でありますから、此の資材、從つて此の勞働力の問題は全く重要な問題であると思ふのであります。然るに我が國は昔からお互に承知致します通り、人口過剰と云ふことが一般の國民の耳に残つて居ります。従つて今日までの勞働行政を見ましても、其の多くは社會政策的方面から發達して居りまして、生産力の方面に此の必要な勞働力を如何に有效に適正に分配するかと云ふことに就きましては、法規の上に於てひ抜けて居りますし、世間も之に對して餘り關心を持たぬのであります。今後は到底さう云ふことではいけないと思ひますので、此の積極的勞働力運用の問題に就きましては、行政の方面から申しましても、或は又一般國民としても勞働力を致さなければならぬと云ふ立場にあると思ふのであります。土木界は多數の人間、勞働力を使用致します立場から、直接自分の關係して居る所の勞働問題は勿論でありますし、更に一步を進めて國內一般の勞働力の積極的方面の活用に對して指導的立場を取らなければならぬ。又さう云ふ任務があると思ふのであります。斯様に勞働力が戰時經濟の最終の問題と致しますならば、戰時、平時を通じて一方に於て

は人間労働力の問題、他方に於てはいざと云ふ場合に人間労働力を機械力に置換へると云ふ意味に於きまして、單に普通言ふ所の經濟的見地のみでなく、一朝事ある時のことを考へまして、努力の機械化と云ふことに就きまして、土木界に於ては特に眞劍に考へる必要があると思ひます。この機械設備のことに付ても矢張り我が國の人口過剩と云ふやうな過去の捕はれたる考へから致しまして、動も致しますると當然あるべきところに機械の設備を缺いてゐる爲に、一朝事ある時に於て、他の方面に必要な勞務を必要な方向に動員することの出来ないと云ふ經驗は、今日の事變に於ても少くないと私は認めて居るのであります。

要しますに土木界は資材、労働力の問題に就て、一段と活動範圍を擴ぐべしと云ふことを申し上げたいと思ひます。斯く申す私に致しましても、學校時代にビルディング マテリアルと云ふ科目で、原 龍太先生の講義を伺つたことを記憶して居りますが、でありますから此の資材と云ふやうな問題に就きましては、實際技術者は關心を持たなければなりません、どちらかと申せば是等の問題は研究所委せ、或は又一部の専門家に委して、一般の土木技術者は寧ろ餘り之を自分の仕事でないかの如くネグレクトして居るのではないかと思ひます。是は一方に於て直接の仕事が忙がしい爲に、勢ひ是等の問題を實際施工に當りましても、是を請負業者の手に委して、之の完成品だけを如何に利用するかと云ふことには力を致しますけれども、資材其のものゝ獲得、勞務其のものゝ配給と云ふ問題に對しては、技術者はどちらかと申せば關心が足りないのではないか、斯う考へます。然るに事態はそれでは居られない時代になつたと考へます。此の點を申上げる譯であります。

之に關聯致しまして統計の問題であります、土木の統計と云ふやうなもの、例へば資材であるとか、努力、機械と云ふやうなものを一括した、一般的統計と云ふやうなものが、どうも私はないやうに思ふのであります。それでありますから何事をするのにも其の企劃の用を爲さないと云ふやうな風に考へられるのであります。此の點は必ずしも土木界ばかりでなしに、他の我國一般の國勢調査の統計と云ふやうなものに就きましても、非常に技術的な觀點と頭腦が缺けて居るやうに思ふ。農業にしても、水産にしても、工業にしても、或はマイニングに就ても表面だけの統計は出來て居りますが、其の内容を爲す所の實質的要素がないやうに思ひます。私は數年前に濠洲に參りました時、農業の統計を見ましたが、其の中には詳しく、人間の努力、機械の動作、幾臺あつて、どう云ふ風に働く、是だけの設備、努力に依つて、是だけの耕地が耕作されて居ると云ふことが本當によく分るのであります。唯人間の數だけ書いてあつては、如何なる機械が別に働いて居るのかゞさつぱり分らないのであります。是等の點は今後の土木技術界の發展改善の上に於て、私は統計を何とか改善したらどうかと、平常感じて居るのであります。

次に近來政府の豫算、或は公共團體の豫算、民間事業の拂込資本と云ふものが、年々非常な額を以て遞増をして居るのであります、此の内容を見ますと、それは非常に土木關係のものが多いのであります。統計が明かでないから簡單に見出し難いのであります、さう云ふ風に感じます。殊に重工業のやうなものが殖えて參りますと、一層其の施設關係に於て土木關係のものが多くなつて來ると思ふ。さう致しますと産業の資本の可なりの部分が土木に關する所のものであると斯う考へます。これは國家經濟の上から重大なる問題であると思ふのであります。然るに土木に關する全國を通じての事務技術と云ふものが甚だばらばらでありまして、是はどうしても今日の國家の新體制に應ずるやうな、一段と組織化すると申しますか、近頃流行る言葉で申しますれば再組織を圖ることが必要と思ひます。是が爲に幾年前から土木學會に於ても、土木行政の機構或は運用等に對して専ら研究を續けて居る譯であります。又公益事業者と云ふやうなことも、さう云ふ觀點から起つたのであります。併しそれは平時の見地から考へられたことであります、此の國防國家の體制から見ましても、是はどうしても十分に研究し、再檢討し

て行かなければならぬものであると感ずるのであります。

又一方土木工事の請負制度の問題であります、是も亦眞に論議されることでありまして、只今申上げた國家的の見地から、國防國家體制の點から見まして 改めて是は検討しなければならぬ。是には色々の方法がありませうが、私は省略致します、是は意見が皆様にあると存ずるのであります。是等の請負制度が全國を通じて其の制度が改革されますならば、先程申しました資材でありますとか、勞務でありますとか云ふ問題は、生産と迄は行かなくても、少くとも配給の統制機關として、今日以上に十分に公的に認められるのに、甚だ都合が宜いと思ふのであります。さうして凡ゆる國家の動きに對して、是と順應して活動することが其處から生れて來るのではないかと思ひます。例へば熟練労働者の養成に對しましても、或は戦時必要な所の特別労働者の團體、言ひ換へれば専門技術家の編成を平素からやつて居つて、さうして之をいざと云ふ場合に戦線に送ると云ふやうな問題、さう云ふやうな幾つかの國家の必要とする所の仕事が斯かる制度の改革から初めて可能になると考へられるのであります。

次に國民の食糧問題、近頃やかましい農業の問題であります、私は東北地方を色々歩いて見まして、其の時の感想では、もつと土木の智恵を此の農業の方面に働かしたならば、今日残されたる荒蕪地が容易に開拓されるものがあり、是が食糧の問題の解決に貢献することが出來ると云ふやうな感じを致したのであります。是は一々技術的に申述べなければ問題にはなりませんがこのうでは私は申しませぬ。無論是は農業土木に關する問題であります、併し他の方面の土木技術からの經驗が、此の方面に十分利用されてよき結果を得られると私は信じて居るのであります。

次は交通土木の問題であります。今回の事變で能く私共は耳にするのは、どうも日本の交通機關は、其の部分的には、それぞれ非常に改善され、速度も向上して居るけれども、内地から大陸迄の一貫した交通と云ふことになると、處々にボトルネックがある。或は鎖の一部が弱いと云ふことで、全體を通じての効果を必ずしも發揮して居らない、是は大いに改善しなければならぬ、斯う云ふやうな説を聞くのであります、其の一つはターミナルと申しますか、港灣に於ける荷役力の問題である。是は先程も申しました機械設備の問題とも關聯しますが、確かに此の點が大切であり、今日迄も十分力を致されては居ることではあります、尙一段の工夫を要するのではないかと云ふ感じを持つのであります。

戦時資材の供給地から前線の第一線が段々遠くなりますと、其の必要供給量は距離に直接プロポーションでなくて、是に何乗かの倍數を以て増加するのであります。前線に於ける 1 キロメートルの軍需物資の消化力を一定と假定致しまして、距離が増大致しますと、距離が倍になつたから倍であると云ふのでなくて、四倍とは申しませぬが、稍自乗に比例すると考へて差支ないと思ひます。それは鐵道の上に乗つて居るもの、船の上にあるものもありませうし、あちらの港灣、こちらの港灣に停滯致して居るものもある。又前線第一線の後方に於ける必要な貯蔵物資と云ふものを總計すれば是に面積的に相成りますので、非常な大きな數字となる。消費と貯蔵とを合せますと、是に對應する後方に於ける生産力は全體自乗で増加して行かなければ到底之をカバーすることは出來ないと云ふことは幾何學的に見ても想像できるのであります。今日物資の問題が非常に困難になつて居るのも、原因はさう云ふ所にあると思つて居るのであります。其の中で一體何處を直せば宜いかと云ふと、港灣に於ける荷役施設即ちターミナルの改善と云ふやうなことが大切であらうと思ふのであります。是は今後に於て出來得れば土木學會などに於きまして、総合的と申しますか、一貫的研究をする必要があるのではないかと、斯う云ふ風に感ずるのであります。

段々話が長くなりましたが、もう少し申上げて止めたいと思ひます。軍と申しますか、兵と申しますか、それ

の機械化或は科學化と云ふことに伴つて、土木の技術が攻防兩方面に活用されると云ひことは、此の前も私はラヂオの講演放送で申したのでありますが、之に關聯しての感想であります。例へば日本の内地のことでござりますが、土木技術界は特に大陸の方に段々伸展して參る譯でありますから、今迄は殆ど國境地帯だけが空襲等に對して考へなければならぬと云ふのが、今日では奥の方迄、言ひ換へれば領土の全地域が程度の差はありまして、相當國境地帯と同じやうな考へ方で施設されなければならず又、鐵道にしても線路の選定と云ふやうなものは此の見地から爲さなければならぬ。謂はゞ平面的から立體的に轉換しつゝある。斯う云ふ點に對して、今後大いに土木技術の方面から考へなければならぬではないか。都市計畫などは既に此の點に考へて、色々と研究が進められて居ると聞いて居るのであります。斯う云ふやうな色々點から見ますと、シビル・エンジニアリングと云ふ語は書物で見ますとミリタリー・エンジニアリングと區別した語だと云ふことでありますが、づうつと以前の歴史から言ふと、大昔と今日のシビル・エンジニアリングもミリタリーの目的から起つたのが最初であると、斯う何の書物かに書いてありましたが、全くさうであると思ふ。斯う云ふ風に一般の情勢から見ますと、最近の國際情勢、世界の情勢は、國家を國防國家とするし、經濟を國防經濟としなければならぬと同様に、シビル・エンジニアリングも大昔に還つてミリタリー・エンジニアリングに戻りをするのではないかと迄考へるのであります。斯様なことは少し行過ぎた表現でありますけれども、さう云ふ行き方も絶対に必要でないと言へないと思ふのであります。斯様に考へて参りますと、今日の技術教育と云ふことに就きまして、相當考慮を要するのではないかと思ひます。今日國家總力戰の觀點からしまして、社會教育は勿論、是は事變以來我が國の國民一般が非常に此の點の知識を増したのでありますが、此の社會教育又普通教育に於ても、過去よりも一層國防の知識を吹込まなければならぬと同様に、専門技術の教育に於ても、國防技術、國防科學教育と云ふものが、考へられなければならぬと思ふのであります。是は今日どうなつて居るか、實は私は承知して居ないのでありますが、さう云ふ氣持がするのであります。丁度とは關聯致しまして、普通教育に技術の概念を與へると云ふやうな教育を取り入れると云ふこともまた必要だと思ふ。今日兵隊に入ると技術的訓練を受けなければならぬ者が相當あると思ひますが、是は恰も青年訓練が軍隊に入りました後に、軍隊の教育に大いに役に立つと同じやうな意味に於て、技術教育を普通教育にも或る程當適當に入れて行くと云ふことは、國民教育の上に於て、此の時代に副ふ所の必要な問題であると考へるのであります。是も或る程度行はれては居ると思ひますが、特に私は新らしき情勢に關しまして工夫をしたらどうかと、斯う考へるのであります。又此の事變以來各種技術者の不足は非常に我々の痛感致して居るところであります、若し此處に土木技術の教育に於て、土木技師にして鑛山技師たり、或は石油採掘技師たりと云ふことが出來ますれば、餘程時局に際しまして都合の好いことだと思ふのであります。さうして是は大學の如き上級の専門的のところはどうか知れませぬが、さうでない技術教育に於きましては可能なる問題であると考へる。又それが平戰兩時を通じての、最も有效なる一つの考へ方ではないか。併し是はどの科目でも出來ると云ふことではないと思ひます。此の點に於きまして私は多少昔のシビル・エンジニアリングに還ることは差支ないと思ふ。元來シビル・エンジニアリングは昔から段々と色々な専門に分れたと言ひますが、斯う云ふ點から見ると、或は昔のシビル・エンジニアリングと云ふ考へ方を以て行くと云ふことも時代相應の考へ方ではないか。殊に總てが綜合力に依つて初めて効力が發揮出來るものならば工科などにも綜合科と云ふやうなものがあつて然るべきではないか。若し綜合科と云ふものが出來るとするならば、其の一番資格のあるものは土木ではないか。土木技術を相當工夫することに依つて、或る程度の只今申したやうな、綜合的技術を茲に發揚することが出來るではないかと、是は誠に漠然たる表現ではあります。そんな氣持が致すのであります。

要するに、斯う云ふ考へ方からして、技術の研究と云ふやうな問題に對しても一、二感想を述べて見ますと、是は皆様の御経験にありますやうに、機械或は電気、地質と云ふやうな、他の専門の力に依つて土木の技術と云ふものが俄かに改善發達を遂げたと思ひます。他の技術もさうであると思ひます。が併し又科學と技術、技術と技術との協力と云ふ點に於ては、まだ私は非常に不足して居ると云ふことを感ずるのであります。今後は一層是等の問題に對して土木學會に於ても研究される必要があるのではないかと。物理學者が段々奥深い所に探究の手を進めて、分子から原子、原子から更に原子の内容が如何なるものか、色々の元素を構成する原子の又其の内容は如何なるものであるかと云ふやうな探究は一に新規の學問と申しますか、電気現象の知識の協力に依つて、今日の此の驚くべき物理化學の發達に至つたと云ふことを聞いて居りますが、私は此の技術の方面に於ても、是等の協力に依つて技術の水準を高める餘地は非常に残つて居る。斯う云ふ感想を持つて居るのであります。次に技術も矢張り文化と同じやうに、時代に副ふての動き方をしなければならぬ。研究機關も唯徒らにラボラトリーの中に興味を持つと云ふものよりも、實際の世間に密接な協同連絡を取つた經濟活動が必要であると思ひます。最近獨逸から歸つた人の話に依りますと、「ドイツ」では經濟學者が單なる大學に於ての學究的研究をして居らずに、大學に於ける經濟學者も、國家の目前に必要な經濟方策に對して研究が許されて居ると云ふことであります。是は私は大いに考へなければならぬ今日の情勢であると思ふのであります。我々の目前には東亞の新建設に伴つて、大陸の建設と云ふ、而も殆ど全部土木と申して宜い位の大きな仕事が興へられて居りますが、是は内地とは違つて規模が非常に大きい。又地形、地勢等も違ふ、従つて技術も自ら違つて來る筈であります。是等の問題に對しては特に私は土木學會等に於て之が基礎的研究を進むると云ふ様なことが必要であると思ふ。曩に土木學會に於て東亞の調査委員會、或は連絡委員會と云ふものを設けられたと云ふことは其の觀點からであらふと存じて、誠に私は力強く感ずるのであります。

以上私は雜然と斷片的に申上げたのでありますが、事變突發以來、我が土木界は勿論であります、我が土木學會も内に外に時局に貢献することが極めて多大であります。然るに時局は今や再轉して新東亞建設に邁進すべき時に入つたのであります。我々會員としましては、時代の真相を察知し、將來の國の動きを達觀して、國策に參畫するの考を以て本會の使命に善處しなければならぬと考へるのであります。是が爲に必要な調査研究と云ふやうなことは、財を惜しまず、是に必要な手段、衆智を集めて對策を講ずべき義務があると信ずるのであります。假りに今回武力戰が一應濟んだと致しましても、次に來たるべき幾つかの問題は續いて居る。先程申上げました通り、我が國は精神力に於ては時艱に際して愈々その眞髓を發揮するので、少しも心配はありませぬが、物質の點に於ては尙大いに努力をしなければならぬ。而して其の内容を爲す責任の地位にある者は技術家であり、又可成り多くの部分が土木技術者の双肩に擔はれて居るものがあると思ふのであります。斯様な意味に於て私は感想を述べましたが、是は必ずしも土木に限つた問題ではないとは存じますが、私共は土木の重要性を茲に強調を致したいと思ふのであります。

以上唯私は課題を提供して、後は専門的知識豊富な、經驗を持つて居られる會員諸君の御研究に依つて、是等の問題が適當に取捨完成せられむことを祈る次第であります。茲に諸君と共に、土木界の先覺者が我が土木學會を通じて國家の進運に貢献せられた幾多の事實に對しまして之を憶ひ起し、更に今後の我が國の進む方向に對しまして、土木學會が土木技術の發展を通じて、國運に一層當與することを期待致し、新會長、並に役員を始め會員各位の御健闘を祈り私の講演を終りたいと存じます。